

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	日本サッカーの特長
Author(s)	デイビッド ペニークック,
Citation	日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集, 1998 : 105 - 112
Issue Date	1999-03-31
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00039554
Right	
Relation	



日本サッカーの特長

デイビッド・ペニーック

はじめに

小さい頃からサッカーをしているので、サッカーに深く興味がある。今年、日本は初めてW杯に出場したので、最近日本サッカーのレベルが変わったと思った。ニュージーランドも1回W杯に出場したことがあるので、日本のサッカーをニュージーランドのサッカーと比べたかった。

日本に来る前に日本のサッカーを生で経験しようと思っていた。去年、2人の日本人が私のサッカーチームに入って、練習で素晴らしい個人的なプレーを見せてくれたのに、試合に出ると思ったようにプレー出来ずに困っていた。日本のサッカーがニュージーランドのサッカーと違うからかなと思って、どんな違いがあるのか、知りたかった。

どうやって私の知りたかったことを研究すればいいのか、考えた結果、やはりどこかのチームに入って、日本人とサッカーしながら、色々比べたらいいと思った。その他にそのチームのメンバーとサッカーの経験を話したり、テレビで放送されるJリーグの試合を見たり、店で売られる雑誌を読んだりすることにした。

この研究を3つの柱に分けた：観戦、サークル活動、W杯観戦とデータ分析

テレビでほとんど毎週、Jリーグの試合を見たほかに、小学校の県大会の決勝戦や全国の高校大会の決勝戦も見た。それらの試合を見て、色々比べた。

大学のサッカーサークルに入ったら、すぐに日本サッカーとニュージーランドサッカーの違いが分かった。その他にメンバーにアンケートに答えてもらった。

6月にW杯が始まって、日本代表を応援した。W杯が始まる前に日本代表を他のW杯に出るチームと比べるために本屋さんに行って、詳しいデータが書いてあった雑誌を買った。

1. 観戦

6月に広島県の小学校サッカー大会は東広島スタジアムで行われた。決勝戦が中国地方のRCCというチャンネルで放送された。生放送だった。

この大会に出た学生はほとんど6年生だった。東広島スタジアムのグラウンドはほとんどのサッカーグラウンドと同じ広さだけど、この大会のためにピッチは小さくしてあった。その上に使ったゴールは一般のゴールよりずっと小さかった。ニュージーランドでは11歳になったら、大人と同じように大きいゴールを使って、大きいグラウンドでやるのだ。だから、この6年生がそんな小さいゴールを使って、小さいグラウンドでやることを見た時にはびっくりした。それ以上にテレビで小学校のサッカー大会を放送すること自体に驚いた。ニュージーランドでは大人のサッカーの試合はテレビであまり放送されていないくて、まして小学校の大会の放送などは考えられない。

もう1つのびっくりしたのは日本の小学生のプレーとニュージーランドの小学生のプレーとは違うことだった。サッカーをする日本人の小学生はよく個人的な技術を練習するようだ。12歳なのにプロ選手と同じように相手の選手の間を走り回れた。シュートもかなり上手だった。しかし、チームワ

ークをあまり練習しないようだ。私の見た試合は決勝戦だったのに、パスもセンタリング、長いボールもあまり良くなかった。チームメートとの連けいプレーもあまり良くなかった。

私は小さい時にサッカー練習でいつもチームのメンバーを2つのチームに分けて、試合をしたものだ。あまり個人的な技術は練習しなかった。日本の小学生は反対のようだ。

この試合を見て、スライディングタックルを1度も見なかった。その日、試合の前に雨がたくさん降ったので、グラウンドは柔らかくなった。だから、こけても、ケガをしない。しかし、スライディングタックルを1度も見なかった。ニュージーランドではサッカーをする人は小さい時から、スライディングタックルのやり方を習って、練習でも、試合中でもやるのだ。

8月の初めに全国高校大会が行われた。市立船橋対岐阜工業の決勝戦がテレビで放送された。日本の高校生がどのくらいスライディングタックルをするのか、知りたかった。前半はスライディングタックルは1つもなくて、後半は3つがあったが、その3つの中で、2つはファールで、もう1つは相手の選手が止められなかった。

8月にテレビで放送された磐田ジュビロ対名古屋グランパス8のJリーグの試合を見た。8つのスライディングタックルの中で2つが成功だった。6つの失敗の中で、2つはファールで、1つはスライディングタックルをした選手がケガをした。

つまり、日本人のサッカー選手はどのレベルでも、ニュージーランドのサッカー選手ほど、スライディングタックルをしないし、しても、成功率が低いようだ。

2. サークル活動

私はニュージーランドで小さい頃からサッカーしていた。だから、やはりニュージーランドのサッカーのスタイルに慣れた。だから、日本でサッカーをすると、私のチームに入った2人の日本人留学生と同じように迷うのかなと思っていた。

日本人は平均的にニュージーランド人より背が低くて、体重が少ないので、これは日本のサッカーとニュージーランドのサッカーの違いと関係がある。この他に違いが多いかもしれないし、日本でサッカーをしてみないと分からない、と思って広島大学のサッカーサークルに入ることにした。

最初の印象が色々あった。今だにはっきり覚えているのは練習するグラウンドの状態ということだった。初めて、サークルの練習に行った時、気温が25度ぐらいで、グラウンドを見たら、このサークルは練習の時、土のグラウンドを使うことが分かった。そんなグラウンドでこけると、やはりケガをするし、スライディングタックルをすると、自分も相手の選手もケガをするので、とても怖かった。しかも、誰かを傷つけると嫌われるかもしれない。

次にすぐ分かった違いはシーズンの違いだった。ニュージーランドでは最近までシーズンは5月から始まって8月に終わる。2、3年前前からセミプロのサマーリーグが始まった。そして、町のあっちこっちで7アサイド（出るチームはそれぞれメンバーが7人いる）というサッカー大会が始まった。こんな大会に出る人が増えてきたのだが、出る人はほとんど会社員である。夏には色々なスポーツを試したいニュージーランドの学生はクリケットやテニスやサーフィンなどをやる。しかし、日本では年中サッカーをするようだ。

もう1つのすぐ分かった違いはブーツの違いだった。そのサークルに入った日、ニュージーランドから持って来たブーツもスポーツシューズを持って行った。しかし、グラウンドの状態を考えると、

ニュージーランドから持って来たブーツのスパイクが長過ぎて、履くと、足が痛くなることが分かった。だから、小さいスパイクが付いているラバーソールのスポーツシューズにした。

しかし、その土のグラウンドで走ると、よく滑った。その靴もダメのようだった。だから、ほかのメンバーのブーツを見せてもらって、みんな小さいプラスチックのスパイクが付いているブーツを履いていたことに気付いた。滑るのはもううんざりで、次の日、そんなブーツを買いに行った。

しかし、初めてサークルに入った日にすぐ分かった違いがもっとたくさんあった。グラウンドは芝がなくて、すごく固かった。そのグラウンドで走る前にちゃんとストレッチをしても、走ると、筋肉がすぐに痛くなった。足の関節がはずれそうだった。練習は週に4回で、1回は3時間なので、1週間がたったら、足がとても痛かった。

ニュージーランドでは練習がだいたい2時間ぐらいである。しかも、冬しかにやらないので、疲れるのだが、あまり汗をかかない。しかし、日本での初めての練習が終わったら、足がとてもだるく、痛く、汗がだらだら出ている。

1週間がたつと、日本のサッカーのプレーとどう違うのかだんだん分かるようになった。

プレーはニュージーランドの方が激しく、速いと思った。なぜかという、ニュージーランドのサッカー用のグラウンドは全部芝で、こけると、痛くないので、スライディングタックルが多い。また、ニュージーランド人は長いボールを蹴るのが好きである。従って試合のペースが速くなる。一方、日本人が短いボールでも逆サイドに蹴るのが好きなようなので、自分の守っているところから、シュートが出来るようになるまで、時間がかかる。しかし、こういうプレーをするために、早く考えなければならぬし、体力も弱いとダメだ。

ニュージーランドのグラウンドは全部芝のグラウンドである。ニュージーランドでは練習が終わったら、みんなボールを集めて、帰るだけである。日本のグラウンドはほとんど土のグラウンドで、そういうグラウンドで走ると、グラウンドが荒れる。だから、練習が終わったら、みんなグラウンドを整備しなければならない。こういう経験は、私にとって、初めてだった。

ニュージーランド人として、1番気になったのはやはりグラウンドの状態だった。日本のグラウンドは危ない。私が理解出来ないのは日本人がこんなグラウンドで水をまかないことだ。水をまくと、グラウンドが柔らかくなって、ケガをする危険が減る。そういう訳で、ニュージーランドでは夏でも冬でもグラウンドが固くないように、水をまく。水をまくのは市役所の人である。ニュージーランドより日本の方がずっと暑いのに、どうしてグラウンドに水をかけないのか、私には理解できない。

5月にシーズンに入った。私のチームは広島大学サッカーサークルの8チームリーグに入った。試合の時は気温がほとんど30度ぐらいで、私はそんな気温に慣れていなくて、かなり疲れた。しかし、前半も後半もそれぞれわずか30分だけで、我慢できた。ニュージーランドでは高校生以上の試合は80分か90分だが、日本の夏に60分間サッカーをするのがニュージーランドで90分間サッカーをするのと同じだと感じた。

しかし、暑さよりも1つの大きい問題があった。試合中、私がボールを持っても、困る時が多かった。なぜかという、やはり日本人のプレーはニュージーランド人のプレーとは違うからだ。私は長いボールかワンツールのような速いプレーをやりたいかったが、チームメイトをみたら、誰も適当なところにいなかった。みんな全然動いていなかった。シーズンの最後の2試合まで、ずっとそんな調子だった。

シーズンのおわりぐらい、チームメイトがやっと私のやりたかったプレーをよんで、相手チームが

(4)

日本人で、私が長いボールを蹴ると思わなかったので、どんどん点をとった。

サークル活動は楽しくて、日本語で話す機会がたくさんあった。サークルに入ったら、日本サッカーとニュージーランドサッカーの違いが分かった。

3. 日本人のサッカーについての調査

私のサークルに入っているメンバーから自分のサッカーの経歴について色々聞いたかった。アンケートを作り、合宿の時、メンバーに配った。メンバーと仲が良くなったので、メンバーに頼むのは簡単だった。私の質問に対して答えながら、私のサッカー経歴を聞いたメンバーが多かった。

アンケートの質問に答えるのはあまり時間がかからないようにアンケートを作った。ほとんどの質問は答えにまるをつける質問だった。結局、1人が答えるのは平均2分ぐらいかかった。20人が私のアンケートに答えてくれた。次下に、質問項目と集計結果を示す。

私は研究生として一年間広島大学で日本語と日本事情、日本サッカーを勉強しています。日本サッカーはニュージーランドサッカーとどう違うか知りたいです。色々なことを比べたいですから下記の質問に対して正直に答えて下さい。

デイビッド・ベニーック

まるをつけて下さい。

1. いつからサッカーをしていますか。

—小学校の時から 12人

—中学校の時から 6人

—高校の時から 1人

—大学の時から 1人

メンバーはほとんど小学校からサッカー始めた。私は日本人が中学校から始めると思って、びっくりした。ニュージーランド人もほとんど小学校から始まるので、これには、違いがないようだ。

2. あなたの中学校のグラウンドは芝のグラウンドですか。

—はい 0人

—いいえ 20人

3. あなたの高校のグラウンドは芝のグラウンドですか。

—はい 0人

—いいえ 20人

ニュージーランドの学校のグラウンドは全部芝のグラウンドだが、逆に、日本のグラウンドは全部土のグラウンドのようだ。土のグラウンドでこけると、ケガをする可能性が高いので、スライディングタックルなどはしないほうがいい。日本人はスライディングタックルの練習をする機会がないので、芝のグラウンドで試合をしても、スライディングタックルや、誰かが倒れるプレーはほとんどしないようだ。ニュージーランドでは、グラウンドは全部芝なので、選手は安全して、スライディングタックル

クルのような激しいプレーはよくする。

4. 中学校の時サッカーをしていた人に尋ねます。

4-1. 週何回練習しましたか。

- 1回
- 2回 0人
- 3回 0人
- 4回 0人
- 5回 0人
- 6回 4人
- 毎日! 14人

4-2. 冬にも夏にも練習がありましたか。

- はい 18人
- いいえ 0人

4-3. シーズン中毎週試合がありましたか。

- はい 18人
- いいえ 0人

5. 高校の時サッカーをしていた人に尋ねます。

5-1. 週何回しましたか。

- 1回 0人
- 2回 0人
- 3回 0人
- 4回 0人
- 5回 8人
- 6回 2人
- 毎日! 9人

5-2. 夏にも冬にも練習がありましたか。

- はい 19人
- いいえ 0人

5-3. 毎週試合がありましたか。

- はい 19人
- いいえ 0人

日本では、クラブ活動があつて、サッカーをする学生は放課後、ほとんど毎日練習に行かなければな

(6)

らないようだ。ニュージーランドでは、自由にクラブに入るかどうか、決めてもいいのだ。中学校では、クラブがあまりないので、サッカーをしたい学生はみんな郊外のクラブに入るのだ。高校に入ると、色々なクラブがある。練習は郊外のクラブのように、週に1、2回だけなので、学校のクラブにも、郊外のクラブにも入っている学生が多い。冬では、毎週、土曜日に試合がある。午前は学校の試合で、午後は郊外のクラブの試合だ。

ここで、1つの大きな違いがある。ニュージーランドでは、サッカーは冬のスポーツだと思われていて、夏には、学生は他のスポーツをする。クリケットやテニスは人気がある。日本では、学生は1つのスポーツを選んで、夏でも、冬でも、そのスポーツだけするようだ。

6. 試合中、どんなケガをしましたか。

(全部、まるをつけてもいいです。)

- スリ傷 20人
- 肉離れ 8人
- 骨折 0人

日本の学校のグラウンドは全部土なので、固い。だから、こけると、ケガをするかもしれない。でも、日本人はこれを分かって、わざと激しいプレーをしなくて、大したケガをしないようだ。ニュージーランドではグラウンドの状態がいいので、選手は激しいプレーをして、たまには大きなケガをする。

7. 大学を卒業したら、クラブに入って、サッカーをしますか。

- はい 14人
- いいえ 6人

ニュージーランドでは郊外のクラブが多くて、どんな年齢の人にも入れる、チームがあるが、日本では、大学を出たら、どうなるのかなと思った。でも、私のサークルのメンバーは大学を出たら、サッカーを続ける。

8. テレビでJ-リーグの試合を見ていますか。

- はい、毎週 20人
- たまには 0人
- いいえ 0人

9. 去年、どのぐらいJ-リーグの試合を見に行きましたか。

- 行きませんでした。 9人
- 1回 8人
- 2—5回 3人
- 5回以上 0人

日本では、Jリーグが始まったばかりの時、サッカーは非常に人気の高いスポーツだったが、最近、野球に負けていると聞いた。サークルのメンバーの答えによって、テレビでJリーグを見るサッカーをする人が多いが、スタジアムの方に行く数が少ないようだ。

4. W杯観戦とデータ分析

6月にW杯がフランスで行われた。日本が初めて出場して、私は日本に住んでいるので、日本代表を応援することにした。日本はW杯に出場したことがなかったので、どうなるのだろうかと思って、日本代表の選手のデータを他のW杯に出るチームの選手のデータと比べた。

選手の身長や、年齢など、知りたかったので、本屋さんに行って、そういう詳しいデータが載っている雑誌を探した。選んだのはW杯に出る全てのチームのデータが書いてあった雑誌だった。選手の個人的なデータが書いてあって、それでチームの平均年齢や平均身長など、計算して、グラフを作った。

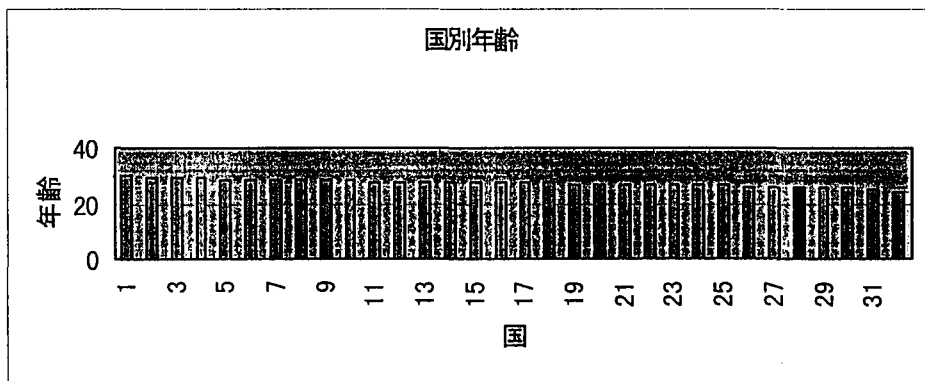
「国別年齢」(図1)というグラフから言えることは、今度のW杯に出ている32チームの中で日本代表の平均年齢は5番目に若い。それは日本代表の選手達がほとんど国際Aマーチに出場したことがすくないことと関連がある。日本代表は経験があまりないチームで、いろいろ分からないまま、W杯に出る。

「国別平均身長」(図2)というグラフから言えることは、W杯に出ているチームの中で日本代表の平均身長は3番目に低い。だから、別のチームと比べると、日本代表はヘディングが弱いだろう。日本代表にとって、チームメートとつなげるために足下のボールを扱う方が頭上のボールよりずっといいだろう。

「国別平均体重」(図3)というグラフによって、W杯に出ているチームの中で、日本代表の平均体重が2番目に軽い。相手の選手とタックルする時に重い方がいいので、これは日本代表にとって弱点である。しかし、体重が少ない人はほとんど足が速い。だから、日本代表にとって、タックルされないようによく走って、いいパスを出すことが大切になる。

今回のW杯は日本代表にとってうまくいかなかった。試合の結果は3連敗で、全部でゴールを1点しかとれなかった。なぜ日本代表が失敗したのか、いろいろ話されたが、何と言っても、日本代表にとって、W杯に出たのはいい経験になった。自分の弱点がはっきり見えたので、日本と韓国で行われるW杯でもっと成功するように、その弱点が直せる。

図1



(8)

図 2

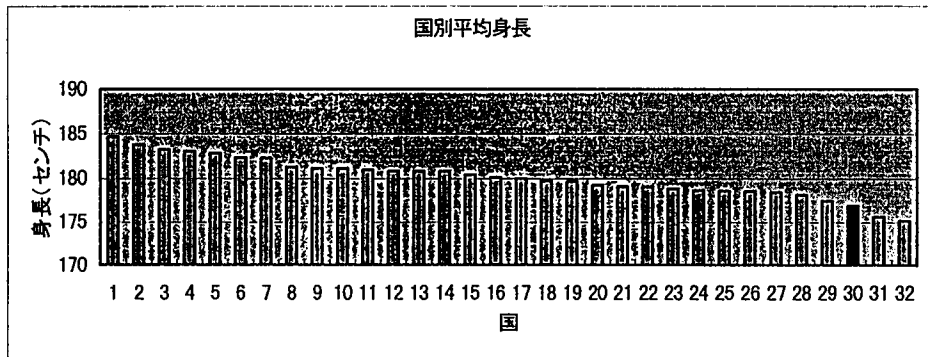
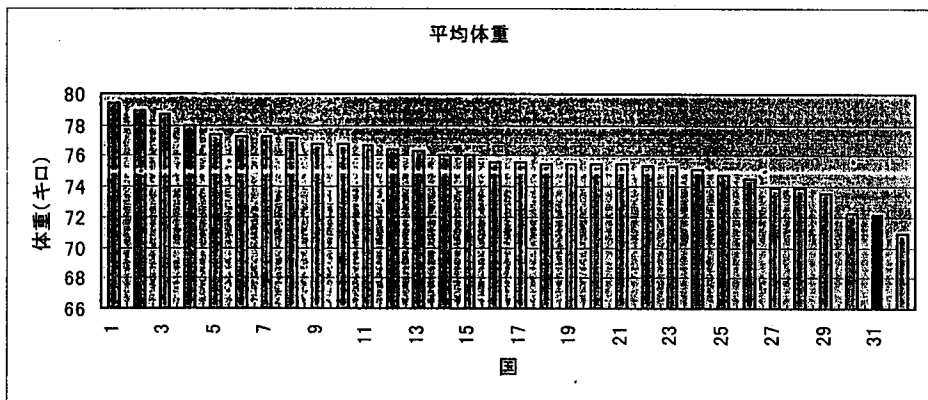


図 3



参考文献

1. 1997年、サッカーダイジェスト、大日本印刷株式会社
2. 1998年、日刊スポーツグラフ：素顔の彼ら、日刊スポーツ新聞社